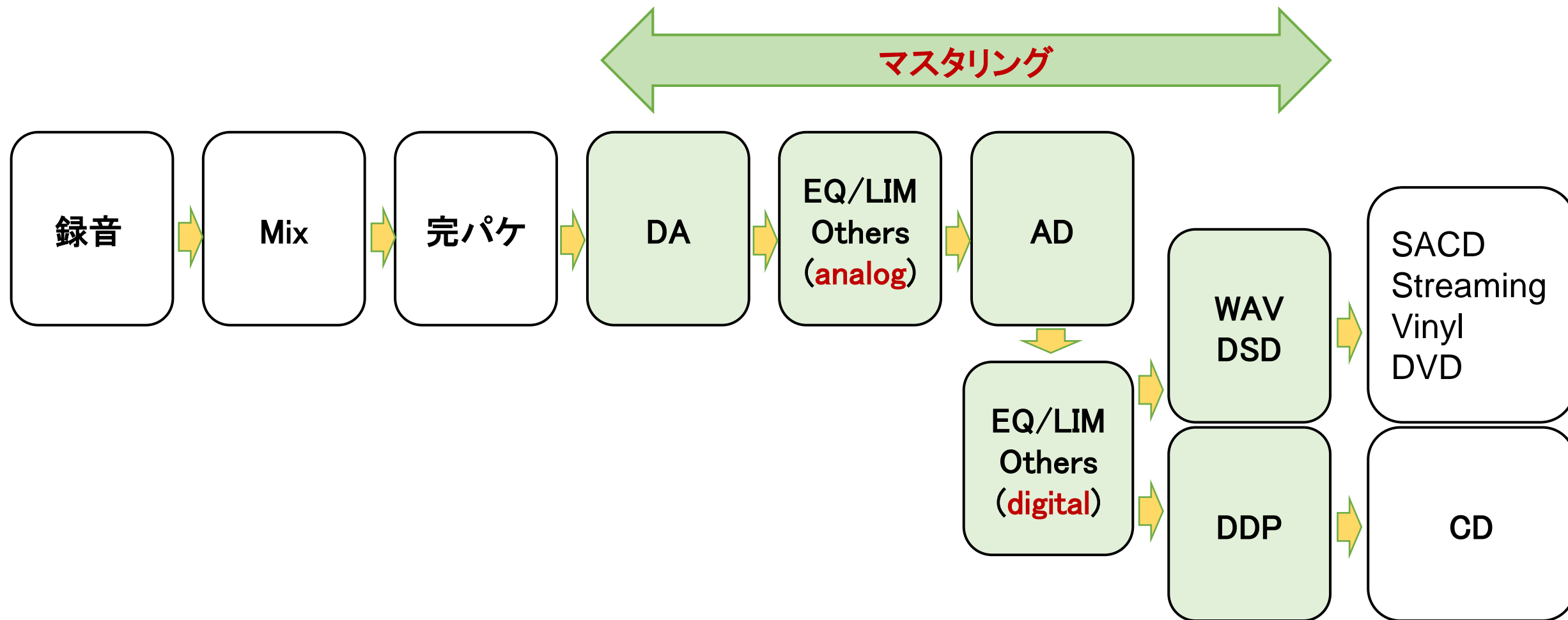


第45回NHラボセミナーレビュー

「マスタリングと新スタジオについて」

講師 田中三一氏 (studio Chatri)

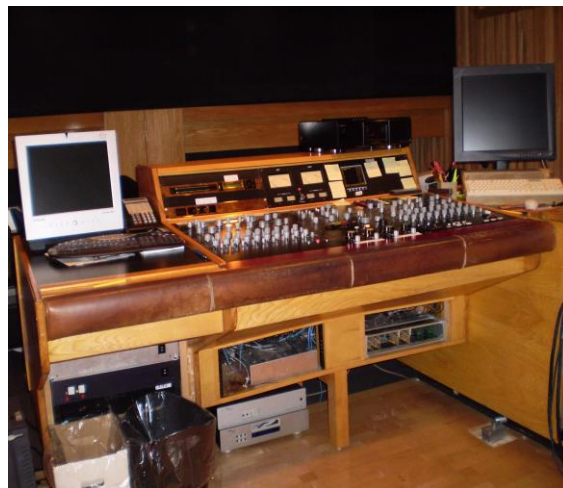
マスタリングプロセス



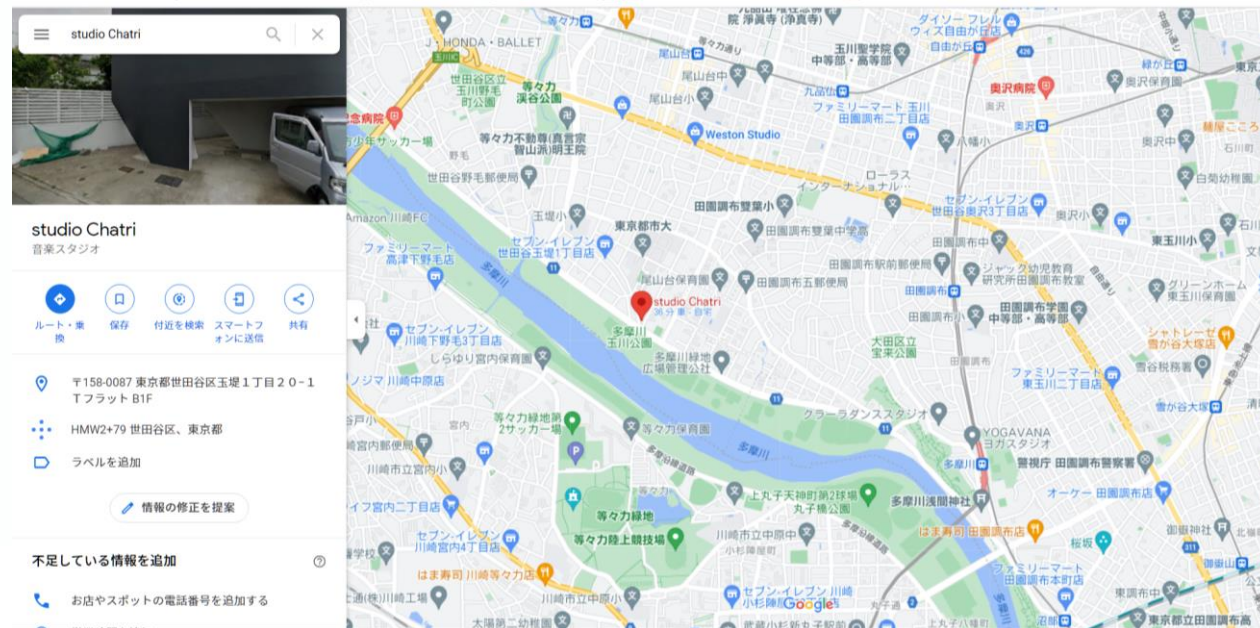
バーニー・グランドマン・マスタリング本社



バーニーさんと田中さん



studio Chattri



東京都世田谷区玉堤1丁目20-1 Tフラット B1F

Part-II スタジオ施工

2022/2/27

最後に

音の判断基準～時代と共にリファレンスとなる曲を広いジャンルから、少しずつサンプル音源として蓄え、20曲ほどになる。

リファレンスの条件は、それを聴いて自分として常に感動するということ。

もしその中の一曲でも、聴いて違和感がある場合はそれが何かを考えながら、部屋の音響やスピーカーのチューニングを見直す。

音楽制作は、レコーディング、ミックス、マスタリングそれぞれ分業。もし完パケマスタの音が素晴らしく、レベルもそのままか1～2デシベルくらいの補正で済むなら、手を加えることなくアナログに戻さなくてもデジタル上での変換だけで済むかもしれない。

マスタリングでは出来ることは限られており、特に個々の楽器の音などの調整は不可能。そこで考え方を変え、マスタリングスタジオでミックスとマスタリングを同時進行すれば、この問題は解消できる。

10年以上も前からこのやり方を時々実践。

この方式が今後の音楽制作につながれば、生産性を大きく改善できる。製作費用をグッと下げることが可能。

これを実行するには、しっかりしたマスタリングスタジオと理解してくれるマスタリングエンジニアの存在が必要。

ミックスの手順は、私は背景からつまり一番奥に位置する音から、コード楽器から順に、ドラムもオーバーヘッドから、一番最後にベース。

そして出来るだけ後戻りしないように着地点をおさえる。

オートメーション(ヴォーカルレベルを細かく調整する)もミックスの途中で簡単に調整する方法がある。

口頭では説明が難しい。興味ある方はデータを持参下さい。極めて簡単。

スタジオやマスタリングについてさらに詳しくお知りになりたい方は、NH ラボ経由でご連絡を。

以上